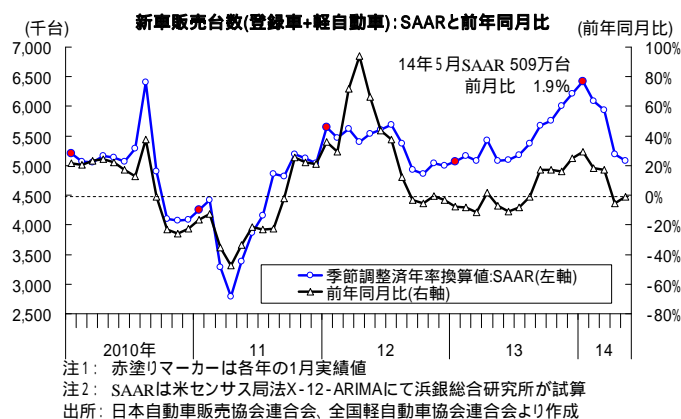


国内新車販売統計（2014年5月）
登録乗用車の需要動向はなお予断を許さない状況

軽乗用車と貨物車の実需は前月比で増加

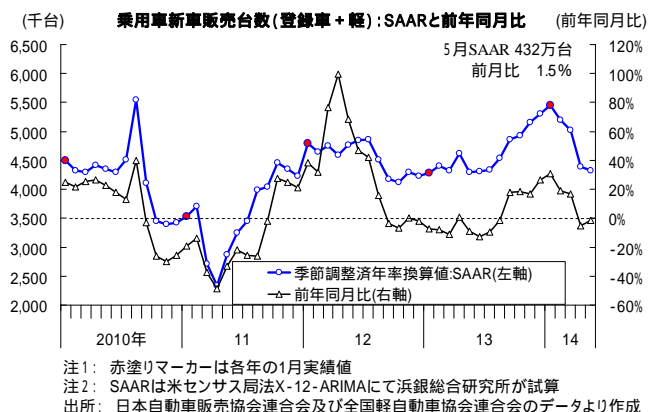
- ・ 6月2日発表の5月の国内新車販売台数（登録車+軽自動車）は前年同月比 1.2%減、季節調整年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算^(注)、以下SAAR)は前月比 1.9%減の509万台と、駆け込み需要の反動減が続いている（図表1）。
- ・ 内訳をみると、登録乗用車の需要が前月比で下落した一方、軽乗用車とトラックは増加しているのが5月統計の特徴である。
- ・ 乗用車（登録車+軽）の新車台数は前年同月比 1.3%減少し、SAARは前月比で 1.5%低下した（図表2）。内訳は、登録乗用車が前年同月比 6.9%減、SAARが前月比 3.2%減の260万台と反動減が継続した（図表3）。一方で、軽乗用車は前年同月比 7.9%増、SAARは前月比 1.2%増の172万台と4か月ぶりに増加に転じた（図表4）。新車販売に占める軽自動車比率は 43.1%（前月は同 45.3%）となったが、後方12か月移動平均値が前月比 0.2%ポイントアップの 40.4%となり上昇基調が続いている（図表5）。
- ・ 貨物車（普通+小型トラック）の実需は前月対比で上昇した。販売台数の原数値は前年同月比 4.7%増とプラス転換し、SAARも前月比 21%増の401万台となった（図表6）。4月のSAARが3月比で凹んだのは、一部メーカーの貨物車登録が3月に集中したのが原因であり、均してみると貨物車の実需は高水準を維持している。
- ・ 後述するが、登録乗用車の販売動向はなお予断を許さない状況が続いている。なぜなら、4月と5月の販売には3月末の高水準の受注残の消化が含まれていたこともあり、駆け込み需要の取り崩しは今後も続くが、6月以降に大きな実需の低下が発生する可能性は依然残っていることに注意したい。

図表1 駆け込み需要後の反動減が続いている

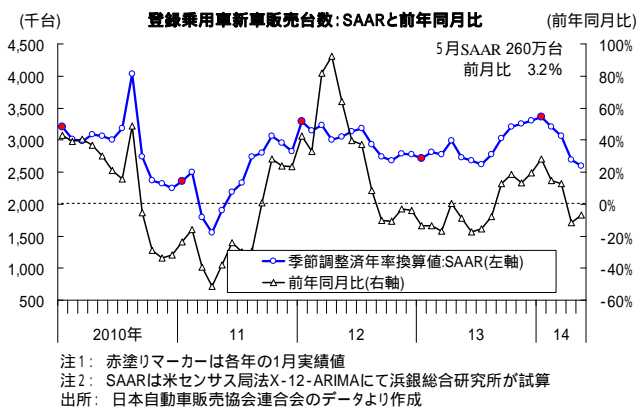


(注) 季節調整係数の算出前提は、サンプル:04年1月以降の120か月、曜日効果の回帰変数は閏年変動を考慮したtd (trading day)、水準変化(LS2010.10:エコカー補助金終了後の需要減)、減衰の外れ値(TC2011.3:東日本大震災影響)を外れ値として検出、TRAMO-SEATS法によりARIMA次数は(010)(110)に確定。

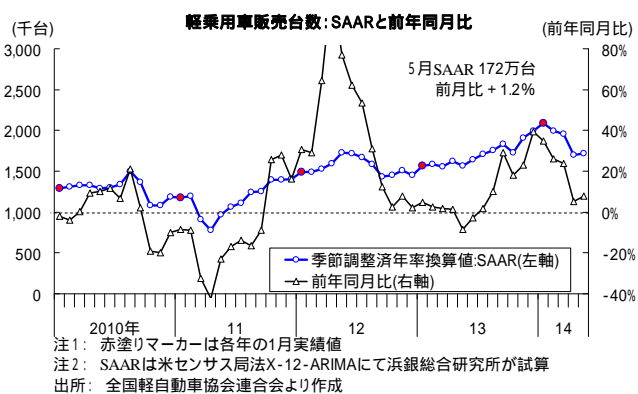
図表2 乗用車 SAAR の前月比低下が続く



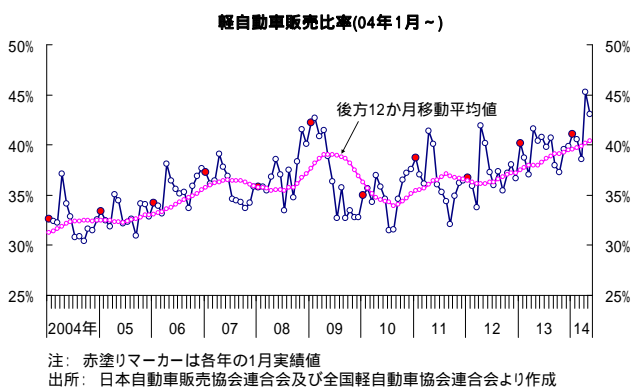
図表3 登録乗用車の SAAR の低下が継続



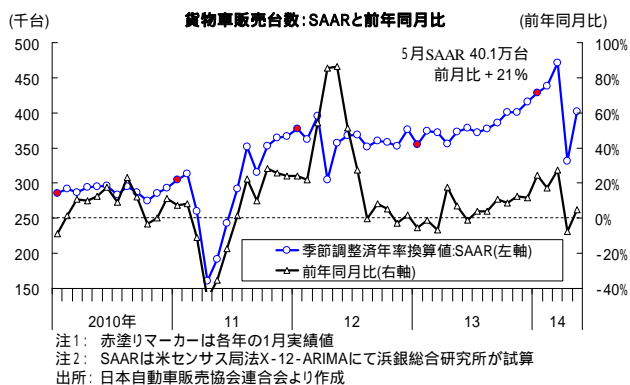
図表4 軽乗用車の SAAR は上昇に転じた



図表5 軽自動車販売比率の上昇が続く



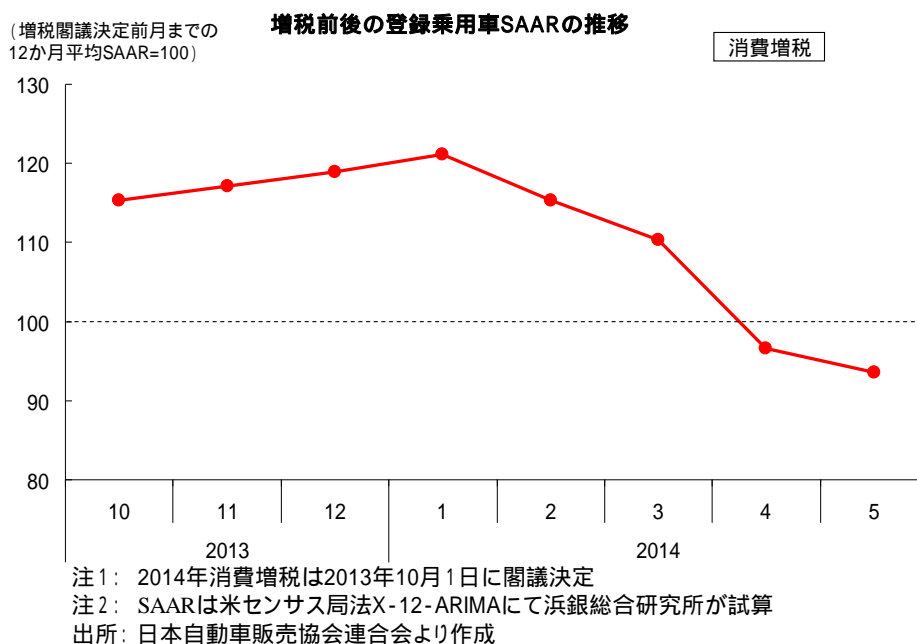
図表6 貨物車の SAAR は高水準にある



登録乗用車の反動減が6月以降に大きくなる可能性は依然として残っている

- ・ 図表7は登録乗用車のSAARの推移を表しているが、消費増税が閣議決定された13年10月からのSAARを、13年9月までの12か月平均を100にして指数化している。
- ・ 昨年10月から今年3月まで高水準の需要の先食いが発生したが、3月までの「蓄積」は4～5月ではまだ完全に取り崩されていない。
- ・ 今回の増税前には大雪の影響など供給面での制約があったために、ディーラーでの受注から登録・届出までの時間（購買者に新車が届くまでの納期）が長引いているモデルが多数存在する。加えて、納期待ちにより登録が4月以降と分かっていたモデルにおいて、オプションの無料ないし割引提供を行って実質値下げしていた販売店もあった。したがって、4月以降の統計には3月までの駆け込み需要の余熱が残っていることになる。
- ・ 5月統計にて登録乗用車のSAARは前月比で減少するかたちになったが、6月以降に反動減が大きく発生する可能性が残されていることには注意が必要だ。

図表7 登録乗用車の反動減はまだ続く可能性



担当：調査部 産業調査室 深尾三四郎
TEL 045-225-2375

E-mail: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。